

## 2025年度 一般入試前期日程試験問題 (1月27日)

### 国 語

#### 注 意 事 項

- 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 解答用紙には、解答欄以外に次の記入欄があるので、監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マークしなさい。
  - 受験番号欄  
受験番号(英字及び数字)を記入し、さらにその下のマーク欄にマークしなさい。正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。
  - 氏名欄  
氏名を記入しなさい。
  - 解答科目欄  
解答する科目を1つ選び、科目の下の○にマークしなさい。マークされていない場合又は複数の科目にマークされている場合は、0点となります。
- 解答は、解答用紙の解答欄に1つマークしなさい。例えば、

5
---

と表示のある問いに対して○と解答する場合は、次の(例)のように解答番号5の解答欄の○にマークしなさい。

(例)

解答番号	解	答	欄
5	○	○	○

- 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

### 国 語

(解答番号)

1 42

問題文の中の「\*」の記号は、原文にあったその直後の文が省略されていることを示しています。解答にあたって考慮する必要はありません。

#### 甲 乙

の文章を読んで、あとの問いに答えよ。なお、出題の都合により一部省略・改変したところがある。

【甲】 マラリアは、現在でも、結核、HIV/AIDSとともに三大感染症の一つとされ、多くの人の命を奪っている感染症です。日本でも古くから流行していましたが、二〇世紀後半、その制圧に成功しました。海外で感染する輸入マラリアを除けば、現在、日本でマラリアに感染することはありません。しかし、アジア、オセアニア、中南米の熱帯や亜熱帯地域では依然として流行が続き、アフリカでア熱帯熱マラリアにかかって、命を落とす人は少なくありません。蚊が病原体を媒介するため、空港などで、そうした地域に渡航する場合には蚊に刺されないように注意<sup>a</sup>。カンキする資料が置かれています。

【乙】 病原体のマラリア原虫はタンサイ<sup>b</sup>。ボウ生物で、三日熱、四日熱、熱帯熱、卵形、サル・マラリアという五種類(の原虫)があり、いずれもメスのハマダラ蚊の吸血を通じてヒトの体内にとりこまれ、発症します。悪寒や高熱、震えが主な症状で、四〇度にもなる高熱が四〜五時間続きます。三日熱と卵形は四八時間、四日熱は七十二時間ごとと、その症状があらわれるので、「三日熱」や「四日熱」という呼び名が付いています。サル・マラリアはカンキが主な宿主ですが、ヒトにも感染します。

熱帯熱は毎日あるいは不規則に発熱し、重症化しにくくなることも多い悪性のマラリアです。熱帯熱マラリアはアフリカウ起源で、人類の拡散とともに世界に拡散<sup>c</sup>。と考えられます。病原体からすれば、感染によって宿主の命まで奪ってしまうことはトクサクとはいけません。そのため、時間がたつ中で、死亡率がしだいに低くなるのが一般的です。病原体と宿主のあいだで、ある種の I I 関係が築かれていない新しい感染症だとする考え方もできます。

【I】 二〇世紀後半、殺虫剤であるDDTを利用したマラリア根絶計画が世界各地で展開され、近い将来、マラリアは根絶できるという考え方が広まりました。しかし、期待は裏切られ、二〇世紀の現在でも人類に大きな影響を及ぼし続けています。WHOや「世界エイズ・結核、マラリア対策基金」、各国政府や民間援助団体の活動にもかかわらず、マラリアの制圧はすぐには困難であり、年間のマラリア患者数は全世界で約二億人、亡くなる人も約五〇万人にのぼり、そのほとんどはサブハラ以南のアフリカの予

でもです。

マラリア対策に莫大な資金と人材が投入されたことあって、二二世紀初め、その患者および死者はだいに減少しつつありました。ところが、新型コロナウイルスのパンデミックの中で対策のための活動が困難になり、感染は再び増加しました。二〇二〇年の患者は約二億五〇〇〇万人、死者は約二百万人と推定されています。

マラリアをはじめさまざまな感染症を媒介するのが蚊です。国際保健の専門家が一般向けに講演するとき、「人間を一番大きく死に至らしめた生き物は何か」という質問をすることがあります。その答えは蚊といわなければなりません。もともと、この話題には別の【II】があって、二番目は人間だということです。

現在からおおよそ二万年前の新石器革命の時代、大河の流域で農耕が開始され、野生動物を家畜として飼育し、生産者とヒトの生活圏が(2)交錯して、さまざまな動物由来感染症が人間に拡がりました。牛から天然痘や麻疹がたらされ、鳥からインフルエンザがたらされたりしました。アジアで稲作が始まり、水田が広がるにつれて蚊の生息地が拡大し、マラリアをはじめとするさまざまな感染症が流行するようになりました。マラリアの語源は、イタリヤ語の *malaria*（悪い空気が、病原体や感染のメカニズムが解明されていない時代には、湿った土地からたはる「瘴気」(マラリア)にその原因が求められました。

マラリアの流行は人類史の展開と【III】を二にしています。その起源はアフリカとされるが多く、その後、エジプト、ギリシア・ローマ、そしてインドや中国にも古代文明の展開とともに拡がりました。大河の周辺に発達した古代文明にとって、ハマダラ蚊の媒介するマラリアは身近な病気のひとつでした。

テイモシー・ワインガード「蚊が歴史をつくった」世界史で暗躍する人類最大の敵「d」がローマ帝国の「e」をマラリアの流行との関係から説明しています。カエサルをはじめ多くの皇帝がマラリアにかかり、そのうちの何人かは命を落としました。ローマ帝国による周辺地域の征服の試みも兵士がマラリアにかかって亡くなったため挫折しました。ローマ近郊で農耕が行われなくなると、湿地が拡大し、マラリアが流行して食料の生産がおぼつかなくなり、ローマ帝国の衰退と滅びにつながったといわれています。第一回十字軍(一〇九六―一〇九九)がコンスタンティノープルに到達したときにもマラリアが流行し、多くの兵士が

命を落としました。二三世紀半ば、モンゴル軍がヨーロッパ・シベリアを断念したのも、マラリアの流行が原因だとされています。モンゴル帝国さえもヨーロッパの蚊による防御を打ち破ることができなかったというわけですね。マラリアをはじめとする感染症が軍隊に大きな影響を及ぼす可能性が高いと言えます。未知の地域にまともな数の人々が移動すると、免疫がもたないという集団は感染症によって大きな被害を受けるからです。

日本列島でも二日熱マラリアが流行し、「瘧」おこり、わらわやむと呼ばれていました。「古事類聚」によると、一〇世紀の平安時代に編纂された「倭名類聚抄」や「医心方」に「瘧」が引かれています。漢字は深い意味をもっています。やまいだれのなかの瘧とは、虎が爪を立てて人を殺害することを意味しています。高熱の苦しみを表現したのもこのよう。稲作が導入されると、水田が拡大し、マラリア流行の条件を提供しました。【I】それは、二二世紀の現在でも、開発援助の大きな問題です。

第二次世界大戦前に実施された調査によると、日本全国いたるところでマラリアが流行していました。三日熱マラリアが中心で、琵琶湖を離れている滋賀県はマラリア流行地として古くから有名でした。

琉球諸島のうち先島(宮古語島や八重山語島、以下、特に断らない限りは、宮古、八重山)では熱帯熱マラリアも流行していました。八重山のマラリアの歴史を詳しく研究した三木健は、「マラリアとの闘いの歴史」でもあったと述べています。それには、琉球王国の歴史が「カク印」されています。八重山、特に西表島は琉球諸島の中ではまれな稲作が可能な地域でした。宮古島も気候は似ていますが、ほとんど山岳がなく雨水に頼るだけでは稲作は難しかったのです。八重山の石垣島や西表島などでは稲作が可能だったため、税も米によって納めることとされ、収穫量を増やすために集団的な移民(村立)が行われました。一八世紀初期、琉球王国の宰相となった蔡温(二六八―一七六三)はさかんに村立を行ない、石垣島や西表島への移民を進めました。

【IV】、マラリアの流行によって移民は失敗し、廃村となる場合も少なくありませんでした。

マラリア流行地で稲作を行うため、二〇世紀半ばまで、八重山では田植えや草刈り、稲刈りのために、周辺の島民が年間六〇日から七〇日ほど西表島に建てた仮設小屋で生活する暮らしが行われていました。これは、「かよい耕作」と呼ばれていました。一九世紀末になって、八重山でサトウキビの栽培が奨励されると、それもマラリア流行の原因になりました。マラリア流行

5 (1.27 J)

6 (1.27 J)

地でもサトウキビを栽培するための土地のカイ、fコンが進められたからです。また、西表島で開発された炭鉱の経営もマラリアとの闘いでした。

問一 二重傍線部 a、f のカタカナを漢字になおすとき、もつとも適当なものを次のなかからそれぞれ一つ選べ。

- |   |        |     |     |     |     |     |
|---|--------|-----|-----|-----|-----|-----|
| a | カンキ    | ① 勘 | ② 環 | ③ 喚 | ④ 歎 | ⑤ 官 |
| b | タンサイボウ | ① 胞 | ② 房 | ③ 鞞 | ④ 紡 | ⑤ 防 |
| c | トクサク   | ① 控 | ② 柵 | ③ 作 | ④ 索 | ⑤ 策 |
| d | セイスイ   | ① 制 | ② 征 | ③ 政 | ④ 盛 | ⑤ 逝 |
| e | シンコウ   | ① 芯 | ② 侵 | ③ 振 | ④ 新 | ⑤ 親 |
| f | カイコン   | ① 壘 | ② 根 | ③ 混 | ④ 建 | ⑤ 慇 |

問二 二重傍線部「如」の「如」の読みを最初の二文字としてみても適当なものを、次の中から一つ選べ。

- ① か ② こ ③ し ④ じ ⑤ な ⑥ に ⑦ ほ

7

問三 波線部(1) (2)の意味としてもつとも適当なものを、次の中からそれぞれ一つ選べ。

- (1) 媒介 ① スムーズに行き来すること ② 一方的に伝えること
- (2) 交渉 ① 身体を介して養育すること ② うごき回ってまき散らすこと
- ③ おつかりあって互いに干渉すること ④ いくつかのものが入りまじること
- ⑤ 全面的に重なっていること ⑥ 二つのものが切り離せなくなる
- ⑦ 異なるものが均質にまざりあうこと

8

問四 傍線部A「熱帯熱マラリア」について述べた文として本文の内容に合致するものを、次の中から一つ選べ。

- ① 二〇世紀後半、全世界で制圧に成功した。
- ② 第二次世界大戦前、日本全体で流行したマラリアの中心である。
- ③ アフリカではサハラ以南でのみ感染例がある。
- ④ 宿主の命を奪うとはめつたにない。
- ⑤ 毎日発熱するか、または不規則に発熱する。

10

8 (1.27 J)

5

7 (1.27 J)

問五 傍線部「一病原体のマラリア原虫」について述べた文として本文の内容に合致するものを、次の中から一つ選べ。

- ① ハマダラ蚊の吸血を通じてヒトの体内にとりこまれる。
- ② 高熱を引き起こす種類があるほか、微熱で済む種類もある。
- ③ タンサイボウ生物で、三日熱と四日熱との二種類に分類される。
- ④ 三日熱、四日熱の呼び名は感染から発症までの期間による。
- ⑤ どの種類もカニクイザルを主な宿主とする。

11

9 (1.27 J)

問六 傍線部「起源」の対義語としてもっとも適当なものを、次の中から一つ選べ。

- ① 未高
- ② 収束
- ③ 終端
- ④ 後世
- ⑤ 破綻

12

問七 空欄 I に入る語としてもっとも適当なものを、次の中から一つ選べ。

- ① 競争的
- ② 安定的
- ③ 相補的
- ④ 計略的
- ⑤ 漸進的

13

— 7 —

問八 空欄 II・III に入る語としてもっとも適当なものを、次の中からそれぞれ一つ選べ。

- |     |      |      |     |     |     |
|-----|------|------|-----|-----|-----|
| II  | ① 落ち | ② 乗り | ③ 裏 | ④ 説 | ⑤ 穴 |
| III | ① 途  | ② 跡  | ③ 源 | ④ 軌 | ⑤ 道 |

15 14

問九 傍線部「それ」が指す内容としてもっとも適当なものを、次の中から一つ選べ。

- ① 日本列島で流行したのが三日熱マラリアだったこと
- ② 日本でマラリアが流行していたこと
- ③ 虎の爪を立てられるほどの高熱の苦しみがあること
- ④ 一〇〇年前からマラリアが流行していたこと
- ⑤ 稲作の導入がマラリア流行につながること

16

10 (1.27 J)

問十 傍線部「オマラリアとの闘いの歴史」上のことからあてはまらないものはどれか。次の中から一つ選べ。

- ① 一九世紀末になりサトウキビの栽培が奨励されたこと
- ② 宮古島には平地がなく稲作が難しくなったこと
- ③ 西表島で炭鉱が経営されたこと
- ④ 米の収穫量を増やすために集団的な移民が行われたこと
- ⑤ 税を米によって納めなければならなかったこと

17

— 8 —

問十一 傍線部「刻印されてい」とはどういうことか。次の中からもっとも適当なものを一つ選べ。

- ① 蔡温が立てたことによって、マラリアから八重山を救うという記念碑的偉業を成し遂げたということ
- ② 三木健の歴史の研究には、琉球王国の歴史についての記述がしばしば登場するということ
- ③ 八重山のマラリアの歴史には、琉球王国の歴史がはっきりと表れているということ
- ④ 歴史的面見れば、八重山のマラリアは琉球王国からたらされたということ
- ⑤ 八重山のマラリアは、琉球王国が推し進めた「かよい耕作」によって制圧されたということ

18

問十二 空欄 IV に入る語としてもっとも適当なものを、次の中から一つ選べ。

- ① さらに
- ② すなわち
- ③ なぜなら
- ④ もしも
- ⑤ しかし

19

11 (1.27 J)

問十三 甲 文の内容に合致するものを、次の中から一つ選べ。

- ① マラリアには十分な対策資金が投じられ、全世界で患者は減少を続けている。
- ② モンゴル人はマラリアを制圧したことにより大帝国を築いた。
- ③ 現在マラリアで亡くなる人のほとんどは、アフリカ全土に暮らす子どもたちである。
- ④ ローマ帝国では多くの皇帝がマラリアにかかり、何人かは命を落とされている。
- ⑤ マラリアの原因が「瘴気」(ミアズマ)であることはまだ否定されていない。

20

— 9 —

乙 マラリアは、熱帯や亜熱帯の感染症と考えられてきた。マラリア原虫を媒介するハマダラ蚊は、確かに熱帯や亜熱帯に多く生息している。農耕、移民、そして戦争などによってヒトが生態系に介入すると流行が起きました。しかし、それは熱帯や亜熱帯に限った現象ではありません。マラリアの世界史をひもとくと、シベリアや満洲、中国東北部、朝鮮半島といった寒冷な地域でもマラリアが流行していたことがわかります。

北海道開拓の中でマラリアが流行していたことは、これまであまり注目されてきませんでした。hunden兵の間で流行していたことについては多くの記録があります。軍医としてマラリアの調査研究を進めていた都築基之助(一八六九—一九三三)は、シナハマダラ蚊による三日熱マラリアの伝播性を日本ではじめて確定しました。日本のマラリア研究は、北海道が起点だったのです。都築は、ドイツに留学し、陸軍の森鷗外(森)の意見にもとづき、脚氣の原因である「脚氣菌」(脚氣の本質の原因は栄養欠乏でたから、それを見出すことが困難でした。脚氣の原因をめぐって脚氣菌と脚氣菌とを呼ばれ、同時に、陸軍と軍の対立でもありました)を探しジャカルタにクハケン(クハケン)されました。しかし、都築が栄養欠乏説をとった海軍の高木兼光を支持するようになったため、臨時脚氣調査委員会の委員を「引退」されました。

12 (1.27 J)

日本のマラリア研究は、その後、植民地の台湾で進展しました。台湾総督府中央研究所、医学校や台北帝国大学熱帯医学研究所がマラリア研究の中心となり、それを北里研究所や慶應義塾大学が支えました。

一九二〇年に開設された慶應義塾大学の旧寄生虫学教室は、日本国内の医学部に開設された寄生虫学教室としてはもっとも古い歴史を持ち、初代教授の宮島幹之助から小泉丹教授、松林久吉教授、浅見敬三教授、竹内勲教授と続いた承譜の中で、一貫してマラリアやアメーバ赤痢の調査研究を進めてきました。台湾でマラリア研究が重視されたのは、マラリア対策が日本の台湾統治にとって極めて重要だったからです。この時期、世界各地でマラリア研究が進められており、日本の寄生虫学者も台湾を拠点としてそれに参入しました。

— 10 —

台湾で実施されたマラリア対策は、先住民地域を中心としたマラリアの流行地を防護地区に指定し、全住民を対象とした血液検査を実施し、マラリア患者をあぶりだしてキニーネを投与するという方法でした。この結果、マラリア患者ははたに減

# 一般入試 前期日程

少していきませんが、その根絶には至りませんでした。

二〇世紀前半、「世界のマラリア予防対策には、大きく二つの潮流がありました。血液検査を行って患者を発見し、キニーネを投与してマラリア原虫を駆除する対原虫対策と、マラリア原虫を媒介する中間宿主のハマダラ蚊を駆除することに重点を置く対蚊対策で、世界中のマラリア予防対策はこの二つの対策の相克の歴史でした。」

森下薫は、小泉丹が進めたハマダラ蚊の研究をより体系化し、台湾におけるマラリア研究を体系化しました。研究の範囲はマラリアの疫学・発生・分布と防除に関する研究などで、動物学的な見地からの研究が中心でした。森下は、世界のマラリア学者と密交しながら、研究を進めました。森下薫は、日本が植民地として統治した台湾で、マラリア研究を「**V**」したと言えるでしょう。「**W**」

森下は、マラリアを防ぐためには媒介対策が有効であるという考え方を持っていました。そのためには、用水路の整備などの生活環境の改善が必要となり、莫大な経費がかかるため、血液検査によって患者を発見し、キニーネなどの薬品によって治療を行う方法を選択しました。すなわち、**サ** 原虫対策が中心となりました。「**X**」

台湾で進められたマラリア対策は、その後、八重山や宮古でも行われました。シム重山のマラリア対策をめぐる技術や人材は、植民地である台湾から導入されたのです。多くの人々がマラリア対策に尽力した結果、八重山でもマラリアの流行地はかなり限定されることになりました。しかし、やはり根絶には至りませんでした。第二次世界大戦期、八重山では大きな悲劇が生まれました。日本軍によってマラリア流行地への強制「**J**」が行われたため、子どもを含め多くの人命が失われたのです。波照間島では住民一五九〇人のうち、ほとんどがマラリアにかかり、約三割の四七七人が亡くなりました。多くの子どもも犠牲になりました。これは、「戦争マラリア事件」と呼ばれています。

日中戦争が**カ** 激化となる中で、日本軍を悩ませたのは中国軍だけではなく、さまざまな感染症でした。中でも、戦線が華中から華南に拡大するとマラリアが大きな問題となりました。日本軍は、台湾で蓄積された原虫対策を中心としたマラリア対策を導入し、将兵の罹病を防ぐことを目指しました。しかし、太平洋戦争に突入り、戦場が東南アジアやニューギニアに拡大し、負け

- 11 -

13(1.27J)

戦がこんでくると、キニーネの供給が絶たれ、将兵の栄養状態が悪化し、マラリアなどの感染症が一気に広がりました。「**Y**」

戦場の記録を読むと、マラリア、アメーバ赤痢、下痢症などの感染症が多く、将兵を苦しめたことがわかります。負け戦の中でマラリアなどの感染症がいったいどれほどの被害をもたらしたのかを正確に知ることは困難です。将兵と書きましたが、将校と兵隊の立場は大きく異なります。戦場の記録を読んで印象的なのは、将校に比べると兵隊の死亡率が高かったことです。栄養状態が将兵の命を左右したのです。軍隊はまちがいがなく**ス** 階級社会でした。「**Z**」

戦場でマラリアに悩まされたのは、米軍も同様でした。しかし、米軍は、DDTを利用して媒介対策を駆除し、戦闘を有利に進めました。

第二次世界大戦後、沖縄は米軍の直接統治の下に置かれました。米軍が行った施策の一つが先島諸島のマラリア対策で、その中心人物であったC・M・ウィラーの名前をとってウィラー・プランと呼ばれています。この対策は、DDTの残留噴霧によるマラリア媒介対策の駆除によって、マラリアを抑制するものでした。DDTを屋内の壁などに噴霧しておく、そこにまじった蚊が死んでしまうという方法です。媒介対策を重視するという意味では、ウィラー・プランは、台湾での経験を導入し、対原虫対策を重視した日本のマラリア対策とは、「**M**」を異にするものでした。米軍が徹底したマラリア対策を行った背景には、沖縄本島での米軍基地の拡大のために土地の「**K**」シユウヨウを行ったので、農地を失った農民を八重山、特に、西表島などに移住させる計画を進めたことがありました。

米軍占領下の沖縄で進められたマラリア対策は、統治政策の中の善政の一つとして語られることがあります。その意味では、日本の台湾植民地統治の下でのマラリア対策との共通性を見ることが出来ます。他方、沖縄にとっては、苛烈な米軍統治を受忍するために、マラリア対策を「**セ**」のように理解した側面も否定できません。感染症を歴史的に考えるということは、感染症対策の光と影を解き明かすことでもあります。

GHQが行ったDDTの残留噴霧によるマラリア媒介対策によって、彦根のマラリアも抑制されました。マラリア流行地として有名な彦根は、この時、媒介対策の発生する彦根城の濠に大量のDDTを散布し、マラリアを根絶したのです。同時に、

- 12 -

14(1.27J)

掘削の埋め立ても進められました。これは、上述のような米軍の経験や、占領行政の中で採用したもので、第二次世界大戦後にWHOなどが進めたマラリア根絶計画に通じるものでした。

台北帝国大学教授としてマラリア研究を進めた森下薫は、台湾ソから引き揚げると、大阪大学微生物研究所教授となってマラリア研究を続けました。そして、彦根に設立されたマラリア研究所の顧問として、DDTの残留噴霧を中心とするマラリア対策を推進しました。それは、**タ** 台湾で蓄積された対原虫対策を否定することでもありました。しかし、媒介対策の必要性自体はもともと森下も認めていて、GHQのマラリア対策に参画したわけです。米軍と日本を超えた、寄生虫学を共通言語とする研究者としての協働といえるでしょう。(飯島夢「感染症の歴史学」による)

問十四 二重傍線部**E**・**K**のカタカナを漢字になおすとき、もっとも適当なものを次の中からそれぞれ一つ選べ。

- |                |     |     |     |     |     |
|----------------|-----|-----|-----|-----|-----|
| <b>E</b> ゲンシヨウ | 0 照 | 0 生 | 0 少 | 0 正 | 0 象 |
| <b>H</b> トンデン  | 0 頓 | 0 問 | 0 屯 | 0 批 | 0 団 |
| <b>I</b> ヒメン   | 0 罷 | 0 避 | 0 否 | 0 批 | 0 非 |
| <b>J</b> ソカイ   | 0 狙 | 0 礎 | 0 疎 | 0 訴 | 0 租 |
| <b>K</b> シユウヨウ | 0 拾 | 0 収 | 0 修 | 0 秀 | 0 集 |

25 24 23 22 21

- 13 -

問十五 波線部**G**の意味としてもっとも適当なものを、次の中からそれぞれ一つ選べ。

- |        |                         |                         |                         |                         |
|--------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|
| (3) 相克 | 0 二つのもの伸がずつと悪い状態にあること   | 0 二つのものを互いに比べ合わせることに    | 0 二つのものを互いに比べ合わせることに    | 0 二つのものを互いに比べ合わせることに    |
| (4) 苛烈 | 0 一致が望ましいが、一致しない状態にあること | 0 一致が望ましいが、一致しない状態にあること | 0 一致が望ましいが、一致しない状態にあること | 0 一致が望ましいが、一致しない状態にあること |
|        | 0 物事について激しく論争する様子       | 0 物事について激しく論争する様子       | 0 物事について激しく論争する様子       | 0 物事について激しく論争する様子       |
|        | 0 攻撃して敵を打ち破る様子          | 0 攻撃して敵を打ち破る様子          | 0 攻撃して敵を打ち破る様子          | 0 攻撃して敵を打ち破る様子          |

27 26

16(1.27J)

問十六 傍線部「日本のマラリア研究は、北海道が起点だった」というのはなぜか。その理由としてもっとも適当なものを、次の中から一つ選べ。

- |                                 |                              |                                       |                               |                                     |
|---------------------------------|------------------------------|---------------------------------------|-------------------------------|-------------------------------------|
| 0 マラリアの原因として栄養欠乏説が支持されるようになったから | 0 三日熱マラリアが他の地域では注目されてこなかったから | 0 北海道のトンデンス兵の間で流行した三日熱マラリアが特殊なものだったから | 0 都築善之助がマラリアの研究のため海外にハケンされたから | 0 北海道において三日熱マラリアの伝播性が日本ではじめて確定されたから |
|---------------------------------|------------------------------|---------------------------------------|-------------------------------|-------------------------------------|

28

- 14 -

問十七 傍線部「ハケン」を漢字で書くとき、「ケン」の部首として適当なものを、次の中から一つ選べ。

- |       |        |         |        |        |
|-------|--------|---------|--------|--------|
| 0 きへん | 0 へんべん | 0 しんにょう | 0 いしへん | 0 くがまえ |
|-------|--------|---------|--------|--------|

29

問十八 傍線部「台湾で実施されたマラリア対策」について述べた文として本文の内容に合致しないものを、次の中から一つ選べ。

- ① この対策でマラリア患者は減っていった。
- ② 先住民地域を中心とする流行地の対策を強化した。
- ③ 全住民を対象としてキニーネを投与した。
- ④ マラリア流行地を、拡大を防ぐ地区に指定した。
- ⑤ 特定地域の全ての住民に血液検査を行った。

問十九 傍線部「世界のマラリア予防対策」に当てはまらないものを、次の中から一つ選べ。

- ① 患者に対してキニーネを投与する。
- ② 対原虫対策としてマラリア原虫を駆除する。
- ③ 対策対策としてハマダラ蚊の駆除に重点を置く。
- ④ キニーネを投与する対策対策をおこなう。
- ⑤ マラリア原虫を媒介する中間宿主を駆除する。

問二十 [ ] のいずれかに「日本軍は組織的に感染症を抑制することに失敗したのです。」の一文が入る。その場所としても適当なものを、次の中から一つ選べ。

- ① [ ]
- ② [ ]
- ③ [ ]
- ④ [ ]
- ⑤ [ ]

問二十一 空欄 [ ] に入る語としてもっとも適当なものを、次の中から一つ選べ。

- ① 集大成
- ② 先鋭化
- ③ 追従
- ④ 分散化
- ⑤ 複製

問二十二 傍線部「原虫対策が中心となりました」とあるが、なぜそうなったのか。その理由としてもっとも適当なものを、次の中から一つ選べ。

- ① 血液検査による患者の発見は難航し、そのための薬品による治療の方が費用がおさえられるため
- ② 生活環境の改善は即効性がないため
- ③ 媒介対策による治療の効果が低いため
- ④ 媒介対策が有効との見方が根拠があったため

問二十三 傍線部「八重山のマラリア対策」について述べた文として本文の内容に合致しないものを、次の中から一つ選べ。

- ① キニーネなどを使う原虫対策が行われた。
- ② 台湾からもたらされた技術が使われた。
- ③ マラリアを完全に制圧することはできなかった。
- ④ 不十分な対策だったため住民の三割が亡くなった。
- ⑤ マラリア流行の抑制に効果があった。

問二十四 傍線部「階級社会」がもたらしたことがらとしてもっとも適当なものを、次の中から一つ選べ。

- ① 将校より兵隊の栄養状態が悪く、後者の死亡率が高かったこと
- ② 戦場の記録には兵隊についての記載がほとんど見られなかったこと
- ③ 負け戦がこんどくと戦場の栄養状態が非常に悪化したこと
- ④ 感染者の被害が正確に分からなかったこと
- ⑤ 戦場でアメーバ赤痢や下痢などが将兵を苦しめたこと

17(1.27J)

— 15 —

18(1.27J)

— 16 —

問二十五 空欄 [ ] に入る語としてもっとも適当なものを、次の中から一つ選べ。

- ① 教義
- ② 分野
- ③ 目的
- ④ 調子
- ⑤ 理念

問二十六 傍線部「そのように理解した」とあるが、どのように理解したのか。もっとも適当なものを次の中から一つ選べ。

- ① 米軍によるマラリア対策は過酷だと理解した。
- ② 米軍によるマラリア対策を善政の一つとして理解した。
- ③ 米軍によるマラリア対策を日本の台湾統治下の手法と理解した。
- ④ 米軍の沖縄統治は八重山への移住計画に他ならないと理解した。
- ⑤ 米軍の沖縄統治が大きく変化したと理解した。

問二十七 傍線部「から」と同じほたるきの「から」を含む文を次の中から一つ選べ。

- ① 朝から呼び出された。
- ② 山田さんから順に発表した。
- ③ 部長ではなく社長から命じられた。
- ④ 学校から帰った。
- ⑤ 風邪だから休んだ。

問二十八 傍線部「台湾で蓄積された対原虫対策を否定することでもありました」とは、具体的に何を指しているのか。その内容としてもっとも適当なものを、次の中から一つ選べ。

- ① 媒介対策を行ったこと
- ② 台湾から引き揚げたこと
- ③ キニーネの活用を続けたこと
- ④ 台湾以外の地で行われていた原虫対策を取り入れたこと
- ⑤ DDTの利用にストップをかけたこと

問二十九 [甲] [乙] 文の内容に合致するものを次の中から二つ選べ。なお、解答の順は問わない。

- ① マラリアの起源は古式文明が起こったインドや中国などといわれることが多い。
- ② 米軍は農地を失った八重山の農民を、西表島などに移住させた。
- ③ DDTの利用でマラリアは根絶できるといふ考え方が二世紀後半に広がった。
- ④ 寒冷な北海道でも開拓時にマラリアが広がったが、日本のマラリア研究は台湾で始まった。
- ⑤ 日本は太平洋戦争で、DDTを使い媒介蚊を駆除してマラリアを制圧しようとした。
- ⑥ 台湾のマラリア対策にはDDTを使うなどの媒介蚊対策が取られた。
- ⑦ マラリア予防対策には、原虫を駆除する対原虫対策と、蚊を駆除する媒介蚊対策がある。
- ⑧ マラリアは、熱帯や亜熱帯を中心に拡がり、現在の日本でも流行している。

19(1.27J)

— 17 —

20(1.27J)

— 18 —

入試	日程	科目	大問	執筆者名	書名	発行所	クレジット
公募	11/20	国語		堀越 英美	女の子は本当にピンクが好きなのか	河出書房新社	
公募	11/21	国語		橋本 裕介	芸術を誰が支えるのか —アメリカ文化政策の生態系	京都芸術大学 舞台 芸術研究センター	
公募	12/14	国語		小川 さやか	「その日暮らし」の人類学 もう一つの資本主義経済	光文社	
一般	前期 1/23	国語	甲乙	平野 卿子	女ことばってなんなのかしら？ 「性別の美学」の日本語	河出書房新社	
一般	前期 1/23	日本史	Ⅲ-D	竹久 夢二	日本史探究 所収 黒船屋	実教出版	
一般	前期 1/23	世界史	I	臼井 隆一郎	アウシュヴィッツのコーヒー コーヒーが映す総力戦の世界	石風社	
一般	前期 1/23	世界史	Ⅱ	牧角 悦子	アジア人物史 第1巻神話世界と古代帝国(古井 龍介他)所収 中国神話 中国古代史の再構成	集英社	
一般	前期 1/23	政治 経済	Ⅱ	経済企画庁	昭和31年度 経済白書 —日本経済の自立と近代化—	至誠堂	
一般	前期 1/24	国語	甲乙	可児 弘明	鶉飼	中央公論新社	
一般	前期 1/24	日本史	I-1 21	平賀 源内	高校日本史 所収 西洋婦人図	山川出版社	Photo: Kobe City Museum/DNPartcom 無断で複写・転載を禁じる
一般	前期 1/24	世界史	I	菊池 良生	神聖ローマ帝国	講談社	
一般	前期 1/24	世界史	Ⅱ	並木 頼寿	日本人のアジア認識(世界史リブレット 66)	山川出版社	
一般	前期 1/24	政経	I	内田 樹	街場の米中論	東洋経済新報社	
一般	前期 1/27	国語	甲乙	飯島 渉	感染症の歴史学	岩波書店	
一般	前期 2/3	国語	甲乙	カレル・チャベック 作 栗栖 継 訳	山椒魚戦争	岩波書店	
一般	前期 2/3	日本史	Ⅲ-D 37		日本史探究 所収 戦後の復員・引揚げ者者数	実教出版	
一般	前期 2/3	世界史	I	池上 俊一	ヨーロッパ史入門 市民革命から現代へ	岩波書店	
一般	前期 2/4	国語	甲乙	西村 祐子	皮革とブランド 変化するファッション倫理	岩波書店	
一般	後期 3/3	国語	甲乙	牟田 都子	文にあたる	垂紀書房	
公募	11/20	英語	I	Caty Weaver Ashley Thompson	VOA Learning English April 16, 2019 Study: Paper Reading More Effective Than Screen Reading	VOA News	
公募	11/21	英語	I	Bianca Vásquez Toness	VOA Learning English November 07, 2023 Housing Important for Keeping Children in School ⇒原典: AP, Nov 2, 2023 At 15, he is defending his home and parenting his sister. One young man's struggle to stay in school	VOA News ⇒The Associated Press	
公募	12/14	英語	I	Matthew Cantor	The Guardian Tue 17 Oct 2023 US pedestrian deaths are soaring. Is it time to ban right turns on red lights?	The Guardian	Copyright Guardian News & Media Ltd 2026
一般	前期 1/23	英語	I		WHO Europe website 17 November 2023 "For me, long COVID was life destroying" – Eric, a vicar from the UK, on how rehabilitation services gave him hope	WHO Europe website	For me, long COVID was life destroying" – Eric, a vicar from the UK, on how rehabilitation services gave him hope. World Health Organization; 2023. Licence: CC BY-NC-SA 3.0 IGO.
一般	前期 1/23	英語	Ⅱ	RHYANNON BARTLETT	Nikkei Asia January 19, 2024 Fujitsu's role in U.K. Post Office scandal: 4 things to know	Nikkei Asia	Nikkei Asia "Fujitsu's role in U.K. Post Office scandal: 4 things to know" Jan 19, 2024 ・Fujitsu's role in U.K. Post Office scandal: 4 things to know (Nikkei Asia, Jan 19, 2024)より一部改変 ・日本経済新聞社に許諾を得て掲載し ています ・無断で複写・転載を禁じる
一般	前期 1/24	英語	Ⅱ	Martin Buzacott	ABC 19 Aug 2020 What is the best classical music to recommend to a newcomer?	ABC	Reproduced by permission of the Australian Broadcasting Corporation - Library Sales Martin Buzacott © 2020 ABC
一般	前期 1/27	英語	I	Jacob Reed	Sustainable Japan February 19, 2021 How the pandemic will change artists' spaces, choices and voices	The Japan Times	The Japan Times, Feb 19, 2021
一般	前期 2/3	英語	I	Angelique Chrisafis	The Guardian Sat 10 Feb 2024 Fighting the smartphone 'invasion': the French village that voted to ban scrolling in public	The Guardian	Copyright Guardian News & Media Ltd 2026
一般	前期 2/3	英語	Ⅱ		EDIBLE WAY	EDIBLE WAY project	
一般	前期 2/4	英語	I	Paul Wiseman	VOA Learning English January 30, 2024 IMF Sketches Brighter View of Global Economy, Upgrading Growth Forecast and Seeing Lower Inflation ⇒原典: AP, Jan 30, 2024 IMF Sketches Brighter View of Global Economy, Upgrading Growth Forecast and Seeing Lower Inflation	VOA News ⇒The Associated Press	
一般	前期 2/4	英語	Ⅱ	Amelia Gentlem	The Guardian Tue 13 Feb 2024 '97% seemed absurd': Labour's Stephen Timms on the English test scandal that wrecked lives	The Guardian	Copyright Guardian News & Media Ltd 2026
一般	後期 3/3	英語	I	Jessica Berman Anna Matteo	VOA Learning English June 02, 2015 For a Longer Life, Go Running	VOA News	"For a Longer Life, Go Running" by Anna Matteo, VOA Learning English, June 2, 2015 based on "5 Keys to Running Healthy and Staying Injury- Free" by Jennifer Van Allen, Runner's World, Apr 25, 2013.
一般	最終日程 英・国総 合型	英語	I	Futoshi Mori	The Japan News October 16, 2024 Serendipitous "Genji" Encounter Changed Keene's Life; Exhibition Shows Work's Charms Through Scholar's Eyes	The Yomiuri Shimbun	2024年10月17日The Japan News
一般	最終日程 英・国総 合型	英語	Ⅱ		Bangkok Post, Jan 24, 2025 Bangkok air pollution forces 352 schools to close	AFF	© Agence France-Press